

1 学校教育目標
今年創立100周年となる伝統と歴史を継承しつつ、「21世紀を逞しく生き抜くとともに、郷土と自然を愛し、地域社会に貢献できる心情豊かな人間の育成」を目標とする。そのために、「知・徳・体を高めることによって、より高い人格の形成とこれからの社会の変化に対応できる資質の育成」をめざす。

2 学校経営ビジョン
教職員と生徒が一体となり、「知行合一」を実践モットーとして教育活動に取り組む。 (知行合一：知識と行動は別のものではなく、知識と行動が合わさって一つ。) 社会規範意識を身に付け、人権尊重に対する理解と認識を深めるとともに、敬愛共同の精神の涵養に努める。 進路希望実現を限りなく100%に近づけるために、学力の向上とともに個性の伸長に努める。 部活動加入率を限りなく100%に近づけて、心身の健康を促進するとともに社会性・協調性の涵養に努める。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 社会規範意識・人権尊重・敬愛共同精神の涵養のために、挨拶・ボランティア活動等に積極的に取り組む。 国公立大学合格者50名以上、福岡周辺の私立大学合格者100名以上をめざして、日頃の教育活動に取り組む。 県レベルの大会等における部活動等優勝旗5本以上をめざして、日頃の教育活動に取り組む。 	具体的目標は概ね達成することができたが、「正しく理解し、正しく判断し、正しく行動する」生徒の育成のために、学習面・部活動面のみならず、挨拶やボランティア活動など学校生活全般においてさらに取り組みを充実させる必要がある。

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・重点目標のうち、数値目標(大学合格者・部活動の優勝旗)を知っている保護者の割合を70%以上にする。	・振興会総会、「唐津西高だより」、ホームページの学校長挨拶、学校案内展示、三者面談等を通して周知を図る。	C	・大学合格者が約50%、部活動の優勝旗が約40%の周知率であった。今後は、振興会総会の出席率を上げるための工夫をしたり、学校HPのレイアウトを工夫したりして、周知に努めていきたい。
	教職員の資質向上	「わかる授業」の研究	・各教科ごとに年間3回以上の研究授業・合評会を実施し、授業内容や指導方法等の改善を進める。	・各教科の全教員が今年度までで最低1回は実施するように実施計画を作成する。 ・合評会のあり方を工夫する。	C	・教科平均2回であった。日頃の業務多忙のため計画どおりに実施することができなかった。各教科ごとの教材研究会を実施したり、お互いに授業を参観できる雰囲気作りをしたりして、研究授業に代わる取り組みを奨励していきたい。
	開かれた学校づくり	体験入学の充実	・体験入学のアンケートで「大変参考になった。」と回答する中学生の割合を50%以上にする。	・体験授業のやり方を工夫し、昨年度よりも内容を充実させる。 ・学校案内ビデオ・パソコンによる学校案内を充実させる。 ・イングリッシュサマーセミナーを実施する。	B	・結果は36.3%であったが、概ね好評であった。体験入学から、本校の志願倍率にいかに関係していくかが、今後の課題である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校事務	経費の削減と予算の適正運用	・電気(空調を除く)の使用量を前年比3%削減する。	・下校時や教室不在時及び昼休みの消灯に全校を挙げて取り組む。	B	・2.9%削減することができた。施錠当番の際に教室の消灯をしたり、放課後1カ所を集めて学習させたことも成果につながった。電気料金が値上げされる来年度は、より一層節電に取り組んでいきたい。
教育活動	学力向上	教科指導の充実	・県下一斉模試の県下順位1500番以内の数を1年40名、2年45名、3年50名にする。	・成績分析会・進路検討会を行い、各学年・各教科での指導方法を各学期ごとに確認する。 ・各教科ごとに小テスト・課題等を工夫し、学習習慣の定着を図り基礎学力を身につけさせるとともに、適切な時期に学習時間調査を実施し、日頃の学習を振り返らせる。 ・各模試ごとに生徒全員に県下順位、偏差値等のグラフを作成させ、不得意分野を確認させる。 ・成績上位者や苦手科目を持つ生徒には別課題を与えて個別指導を行い、早い段階からの進路意識の向上を図る。	B	・2年1月で何とか目標達成出来た。生活の記録や模試成績推移表などの活用が功を奏した。今後は添削指導にも力を入れて更に充実させたい。 ・3年は県模試の目標達成はならなかった。進路検討会は例年以上に行った。 ・意欲的に学習に取り組んでいる生徒とそうでない生徒との差が大きい。今後は意識の低い生徒へのケアが大切になる。 ・進路意識の高い生徒と進路目標をなかなか設定できない生徒がいた。早期に設定させることが重要である。
	進路指導	進学意識の向上	・大学進学希望者数の割合を全校生徒の70%以上にする。 ・進路希望調査で未定の人数を0にする。	・「総合的な学習の時間」を活用し、進路について考えさせ、啓発を図る。 ・「総合的な学習の時間」に職業観育成のための職業研究をしたり、社会人を招いての講演を実施したりする。 ・学級通信・学年通信を通じて絶えず進路情報を生徒や保護者に提示していく。 ・生徒との面談を各学期に行い、担任との進路についての話し合いをこまめに行う。	A	・講演、ジョイントセミナー等を通して進路意識が高まった生徒も多かった。 ・進路意識は向上しているが、まだまだ十分とは言えない。HR、個人面談などの活用を工夫すべきである。 ・全校生徒の75.1%が大学進学希望になり、3年生も卒業時点で70%を確保できた。また、進路希望調査で未定の人数は0になった。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動		進路希望の達成	・国公立大学50名以上、福岡周辺の私立大学100名以上の合格者数にする。	・進路検討会を行い、生徒の希望に合った学力がついているかの検討をし、指導する。	A	・センター試験受験者172名。国公立大学出願78名(前期)はいずれも過去最高。国公立大学合格53名、福岡周辺の私立大学合格107名を達成した。
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・生徒の年間出席率を98%以上にし、延べ遅刻者数を2000名以内にする。	・遅刻者に対して、徹底した指導を行う。 ・学年主任を柱に欠席、遅刻者の把握をし、早期対応を行う。	B	・出席率98.1%、延べ遅刻者数2389名(1月末現在)であった。 ・学年主任を柱に早期対応をしてきたが、休みがちな生徒の出席率を上げることができず、遅刻常連者も改善されなかった。
		マナー及びモラル意識の高揚	・校内外において、服装を正し元気に挨拶できる生徒を育成し、地域からの評価を高める。	・毎学期当初に服装頭髪検査、6月と11月に服装指導週間を設定し、服装に対する意識を高めさせる。 ・登校・巡回指導において、制服の正しい着用の指導をする。 ・生徒指導部による朝の挨拶の呼びかけを実施する。 ・朝の挨拶運動を実施し、振興会地区役員の協力を得ながら現状把握・改善に努める。	B	・服装・頭髪に関する保護者アンケートの結果からみても改善傾向にあり、全校的に見ると服装や挨拶の印象は向上している。朝の挨拶運動は地域連携協議会に参加の小中学校とも連携し、一歩進んだ実施ができた。 ・服装、挨拶ともよくできた。一部の生徒が改善されなかった。 ・2年生は、他学年と比較しても服装の乱れが目立つ。服装検査時だけでなく、やはり日頃の声掛けが必要である。
		環境美化の推進	・全校生徒のマイゴミ袋持参の割合を60%以上にする。	・毎学期掃除週間を設定し、環境美化の意識の高揚を図る。 ・生徒会企画「クleanアップ週間」「マイゴミ袋運動」を実施する。 ・花苗の育成を通して、環境美化の精神を育てる。	A	・美化委員・担任からの声掛けが少なかったように思う。ゴミの減量と共に取り組んでいきたい。 ・相変わらず廊下や下足箱にジュースパックやガムのくず紙などの散乱が見られ、さらなる環境美化意識の啓発が必要である。マイゴミ袋の協力度は1回目(7月)42.4%、2回目は(1月)76.6%であった。 ・生徒会を中心に花苗の育成は活発に取り組めた。 ・昨年度に比べると廊下のゴミやトイレのゴミが大幅に減った。マイゴミ袋の協力についてはクラスの温度差があった。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動	健康・保健指導	心と体の自己管理	・各科検診後の受診率を昨年度の2倍にする。	・受診勧告及び啓発週間を設定する。	B	・受診勧告の回数を増やし時期を考慮して実施した。視力以外は、受診率の目標を達成した。
	図書館利用	図書館の利用と読書活動の推進	・図書館貸出冊数平均を7冊以上にする。	・図書委員会活動を充実させる。 ・図書館だよりを月1回発行する。 ・朝の10分間読書を実施する。 ・図書館利用で図書館利用のマナーを徹底させる。 ・英語図書を含む図書の購入を積極的に行う。	B	・貸出冊数平均5.9冊だった。生徒が本を読む工夫を重ねたい。 ・図書館利用のマナーは向上が見られた。 ・図書委員会活動、図書館だよりの発行は予定通り進めることができた。 ・SELHi 図書も増え、貸出冊数も伸びている。
	部活動	部活動の活性化	・1年生の部活動加入率を限りなく100%に近づける。	・部活動紹介を実施し、部活動加入を意識させる。 ・部編成会を2回実施し、未加入者に部活動加入を勧める。	C	・部活動編成の実施等工夫したが、1年生の入部率は88%と向上しなかった。
			・県レベルの大会での優勝旗を5本獲得し、高校総体で学校対抗ベスト10以内に入る。	・部顧問会で、練習の効率化などを呼びかける。 ・各部が県レベルの大会での目標をベスト4以上に設定できるように練習等を奨励する。	A	・県レベルの大会での優勝旗を5本獲得し、高校総体で学校対抗9位(男子10位、女子7位)と実績は向上した。
ボランティア活動	校内外におけるボランティア活動の推進	・各学年単位で年1回以上校外におけるボランティア活動を実施する。 ・部活動単位でのボランティア活動を年間延べ100回以上実施する。	・年間行事計画の中に位置づけて実施する。 ・学年ごとに実施計画を作成し、内容、場所等について、充実したものになるよう検討する。 ・各部の活動計画を生徒会で取りまとめ、年間を通した活動を可能とする。	A	・学校周辺の清掃活動では、生徒全員の意欲的な取組が見られた。 ・部活動単位でのボランティア活動を年間延べ115回実施し、目標は達成できた。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
特定 課題	SELHi 研究開発	4技能の英語運用力の養成	・実用英語技能検定の合格者を2級 20名にする。	・学外履修による単位を認め生徒の英検に対する意識を高める。 ・生徒の英語学習の取り組みの過程において、英検を意識した4技能のバランスのとれた指導を行う。 ・1次試験合格者に対しては面接の指導を行う。	B	・英検の受験者も増加し、4技能のバランスの取れた授業ができた。 ・2級合格者は11名であった。合格への壁は高く、更なる努力が必要である。
		英語の授業における内容の充実	・「英語」の授業の70%、「英語」の授業の80%を英語で授業する。	・英語科の教職員に対し、指導法講習会を行う。 ・学外公開の研究授業を行い、指導法の向上を図る。		A

6 総合評価

本年度の重点目標は達成できつつあり、全職員の共通理解のもと十分な取り組みができたものと考えられる。一方で、昨年度と比較して、各数値目標の達成状況に格差が見られた。青春佐賀総体や創立百周年記念事業等、例年になく大きな行事が重なった関係で、年間を通しての個別の目標に対する取り組みが不十分であったためであろう。しかし、環境美化・部活動・ボランティア活動等では数値目標を達成しており、生徒指導の成果が確実に表れつつある。

7 次年度への課題・改善策

次年度は学校評価への取り組みも4年目となり、各数値目標について大きく見直しをすべき時期になると考えている。本校の進むべき方向性は固まりつつあるので、学校経営ビジョンを踏まえながら、より高い目標や実現可能な目標を設定して学校経営や進路指導・生徒指導等の教育活動に取り組んでいきたい。また、SELHiの研究開発も最終年度となるので、9月の研究成果発表会に向けて目に見えるかたちで成果を示すことができるように、これまで以上に積極的に取り組む必要性を感じている。